

教育に関する事務の点検及び評価報告書

(平成31年(令和元年)度分)

令和2年8月

南部町教育委員会

【目次】

第1 点検・評価制度の概要	1
1. 事務の点検・評価の考え方	1
2. 具体的な事務の点検・評価の方法	1
3. 事務の分類と評価	1
第2 事務事業ごとの点検・評価	2
I. 教育委員会の活動	
1. 教育委員の構成	2
2. 教育委員会の活動状況	
(1) 委員会議の開催状況	2
(2) その他の活動状況	3
II 教育委員会が管理執行する事務	3
III 各課の事務の点検及び評価の結果	4～26
1. 学校教育環境の充実（学校教育課）	
(1) 学校教育施設・環境の整備	4～8
(2) 学校教育内容の充実	8～10
(3) 教育支援センター事業の実施	11～13
2. 生涯学習の充実（生涯学習課）	14～15
3. 文化の振興（生涯学習課）	16
4. 総合会館・公民館・文化ホール事業（生涯学習課）	17～19
5. アルカディア文化館（生涯学習課）	
(1) 南部図書館・富沢図書館	20
(2) 町立美術館	20～21
6. 生涯スポーツの充実（生涯学習課）	
(1) 施設の充実と効果的な活用	22～23
(2) スポーツグループの育成とスポーツの生活化	23～25
(3) 組織の充実と連携	25～26

第1 点検・評価制度の概要

1. 事務の点検・評価の考え方

南部町教育委員会では、学校教育、生涯学習、文化、スポーツ・レクリエーションなどの分野で様々な施策に取り組んでいますが、これらの施策を充実させる上で各施策の進捗状況や町民の皆様及び関係各位の意見を踏まえることは非常に重要なことです。また政策効果を把握し、必要性、効率性等の観点から自ら評価を行い、その結果を公表することは、住民に対する説明責任を果たす上で重要なことです。

このようなことから「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、自らの権限に属する事務の管理及び執行について、点検評価を行い、その結果に関する報告書を作成し議会に提出するとともに、町民に公表する取り組みを平成 20 年度から実施しています。

【参考】

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価等）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務「前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長権限に属する事務（同条第三項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。」の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2. 事務の点検・評価の方法

平成 31 年（令和元年）度に南部町教育委員会並びに教育委員会各課において執行された事務事業について、教育委員会内部で点検評価する。

3. 事務の分類と評価

教育委員会所掌の事務事業を次のとおり 3 分類する。

- I 「教育委員会の活動」
- II 「教育委員会が管理執行する事務」
- III 「教育委員会各課の執行する事務事業」

◇ 達成度の評価

「III 教育委員会各課の執行する事務事業」について、達成度を 5 段階で評価する。

- 5 極めて満足である（順調に達成している）
- 4 満足である（概ね順調に達成している）
- 3 普通（達成見込みだが若干課題がある）
- 2 不満足である（順調でない）
- 1 極めて不満足である（達成しなかった）
- 評価しがたいもの

第2 事務事業ごとの点検・評価

I 教育委員会の活動

1. 教育委員の構成

南部町教育委員（2019年5月10日～2020年3月31日）

職 名	氏 名	任 期	備 考
教 育 長	芦澤 和彦	2018年4月1日 ～2021年3月31日	教育長就任 2018年4月1日
教 育 長 職務代理者	四條 勉	2016年5月1日 ～2020年4月30日	教育長職務代理者就任 2019年5月10日
委 員	河内 留美	2018年4月1日 ～2021年4月30日	
〃	佐野 保仁	2018年5月10日 ～2022年5月9日	
〃	入月 一巳	2019年5月10日 ～2023年5月9日	

2. 教育委員会の活動状況

(1) 委員会議の開催状況

南部町教育委員会の会議は原則として公開する。また毎月1回の定例会のほか、必要に応じ臨時会を開催する。

この会議において、5名の教育委員（教育長1名を含む。）が教育行政の運営の基本方針や教育委員会の規則等の制定改廃など、会議において議決を要する事項について審議・決定を行うとともに、重要事項について事務局から報告を受けている。

平成31年（令和元年）度の教育委員会会議の開催状況は次のとおりである。

会 議	開催日	議案件数	報告件数	その他
平成31年 定例会第4回	4月5日	2	3	1
令和 元年 〃 第5回	5月9日	4	2	5
〃 第6回	6月11日	0	3	1
〃 第7回	7月9日	1	1	4
臨時会第1回	7月30日	1	0	5
定例会第8回	8月20日	2	1	0
〃 第9回	9月12日	1	2	1
〃 第10回	10月11日	0	4	1
臨時会第2回	10月24日	0	1	0
定例会第11回	11月18日	1	2	1
〃 第12回	12月18日	3	1	1
令和 2年 〃 第1回	1月15日	6	1	1
〃 第2回	2月19日	1	3	1
〃 第3回	3月11日	5	2	2
合 計		27	26	24

(2) その他の活動状況

教育委員は、教育委員会の会議への出席以外に、各会議、関係行事等へ出席している。
なお、平成27年度より地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定に基づき、南部町総合教育会議が設置され、平成31年（令和元年）度は3回の会議が開催された。
その他主な活動は次のとおりである。

- ・山梨県町村教育長会 ・山梨県教育委員会連合会
- ・峡南地区教育委員会連合会総会及び研修会
- ・峡南地域教育推進連絡協議会総会及び研修会
- ・南部町教育委員先進地視察研修 ・学校訪問
- ・各小中学校入学式 ・卒業式
- ・各小学校運動会 ・中学校学園祭
- ・町民体育祭 ・成人式典 ・町内駅伝・マラソン大会
- ・万沢小学校閉校式 ・富河小学校閉校式
- ・その他各種イベント事業への出席

Ⅱ 教育委員会が管理執行する事務

教育委員会が管理執行する事務は南部町教育委員会事務委任規則に規定されている。
平成31年（令和元年）度に管理執行した事務については下記のとおりである。

(1) 教育委員会規則及びその他の重要な規定の制定及び廃案すること。

規則の制定・改正・廃止

教育委員会が服務を監督する教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則の制定
学校運営協議会規則の一部改正
町立小・中学校管理規則の一部改正
青少年育成カウンセラー設置規則の一部改正
社会教育指導員に関する規則の廃止

要綱・規程の制定・改正・廃止

美術館運営審議会設置要綱の制定
教育支援センター設置要綱の一部改正
教育委員会事務局処理規程の一部改正
学校評議員設置要綱の廃止

(2) 教育予算その他の議会の議決を経るべき議案の原案を決定すること。

条例の改正

使用料条例の一部改正（文化ホール条例、公民館条例、社会体育施設条例、アルカディア南部総合公園条例、学校施設の開放に関する条例、自然休養村センター条例、農村環境改善センター条例、活性化センター条例）
学校給食共同調理場の設置及び管理に関する条例の一部改正

予算

平成31年度6月補正予算、平成31年度9月補正予算、平成31年度12月補正予算、平成31年度3月補正予算、令和2年度当初予算

(3) 教育委員会の所管する各種委員会の委員の任命及び委嘱に関すること。

学校給食共同調理場運営委員会 委員17名
学校評議員 委員12名
学校運営協議会 委員15名
社会教育委員協議会並びに公民館運営審議会 委員14名
スポーツ推進審議会 委員8名
美術館運営審議会 委員6名

Ⅲ 各課の事務の点検及び評価の結果

1. 学校教育環境の充実（学校教育課）

（１）学校教育施設・環境の整備

① 学校施設環境整備事業

* 事業概要

- ・小中学校に学校図書の整備を行った。

* 成果〔評価 ４〕

〔小中学校施設の学校図書の整備〕

- ・睦合小学校 849,000円（図書411冊 CD15枚 DVD8枚）
- ・栄小学校 678,152円（図書348冊 CD11枚 DVD4枚）
- ・富河小学校 735,352円（図書391冊 CD10枚 DVD2枚）
- ・万沢小学校 596,942円（図書344冊）
- ・南部中学校 880,785円（図書398冊 CD 1枚 DVD9枚）

* 課題

学校図書の購入については、限られた予算の中で計画的に進める必要がある。

② 地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業（スクールガードリーダー）

* 事業概要

児童生徒が安心して教育を受けられるよう、家庭や地域の関係機関・団体と連携しながら、学校の安全管理に関する取り組みを実施することを目的とする。

本町では、平成17年より1名のスクールガードリーダーを委嘱し、小学校4校に対して登下校の際の子どもへの指導、見守り隊への指導、通学路の安全確認等を実施している。スクールガードリーダーは、主として学校周辺を登校時間帯及び下校時間帯にそれぞれ2時間程度、4小学校を曜日変わりで巡回している。

- ・スクールガードリーダー報償費 190,300円

* 成果〔評価 ４〕

事業を開始してからは特に問題等は起きておらず、犯罪抑止など事業効果は大きい。

* 課題

今後も子どもたちの安全確保のため事業を継続していくが、小学校の見守り地域が広範囲に及ぶため各校の見守りボランティアと連携するとともに、通学路付近の住民に「ながらパトロール」の依頼をするなど、全町的に効率的な見守りを行うことに努める。

③ 日本スポーツ振興センター災害給付金事業

* 事業概要

各小中学校に在学する児童・生徒の不慮の災害に備えて、独立行政法人日本スポーツ振興センターと災害共済給付契約を結び、学校の管理下において児童生徒が災害に遭った場合、その治療費や見舞金の給付を保護者に対して行う制度。町では全校児童生徒がこの制度に加入しており、その共済掛金は町が負担している。

- ・共済掛金合計額 394,630円（対象：小学校263人、中学校163人）
- ・実績（給付金合計）490,464円（対象：小学校25件、中学校55件）

*** 成 果 [評価 5]**

町では医療費助成制度により、18歳まで無料化されているが、この災害給付金制度では療養に伴って要する費用として加算される分（1/10）があり保護者にとっては有利である。学校でもその点を説明し、この制度の利用に努めている。

*** 課 題**

各学校では児童生徒や保護者にスムーズな手続きが取れるよう説明や周知を行っているが、事務処理の関係により年間を通してみると給付までに時間を取ってしまうケースがいくつかあるため、より迅速な対応に努めていく。

④ スクールバス運行事業

*** 事業概要**

南部中学校において、富河・万沢・井出・十島地区の生徒を対象にスクールバスを運行する。また、小学校と居住地が遠く離れている井出・十島・万沢（陵草）地区の児童及び通学路（国道）が危険な楮根地区児童も、スクールバスで送迎している。

- ・総事業費 21,276,829円
（内 訳）
- ・運行委託料 16,811,460円
- ・修繕料 2,490,367円
- ・燃料費 1,975,002円

*** 成 果 [評価 4]**

児童生徒の通学にかかる負担を軽減する。

- 1) 南部中学校の生徒の輸送
 - ・富河地区 38名、万沢地区 18名、井出・十島地区 9名
- 2) 富河小学校の児童の輸送
 - ・楮根地区 5名
- 3) 栄小学校の児童の輸送
 - ・井出・十島地区 10名
- 4) 万沢小学校の児童の輸送
 - ・陵草地区 2名

*** 課 題**

スクールバス乗車時間の最長は徳間地区生徒で約25分間である。遠距離生徒が安全かつスムーズに登下校できるよう運行時間、運行ルート、乗降場所等の調整を図る。また、スクールバス利用による児童生徒の心身疲労の軽減、運動不足の解消に努める。

⑤ 学校給食共同調理場運営事業

*** 事業概要**

平成25年4月に2つの調理場を統合し、南部町学校給食共同調理場をスタートさせ、調理の集中化により一層の効率化を図った。安心で安全な栄養面も十分に配慮した美味しい給食を提供することにより、子どもに望ましい食習慣を身につけさせることを目的に、共同調理場を設置している。

また、調理施設の維持管理や衛生面の充実に努めるほか、給食費負担金の収納確保にも取り組みました。

1回（1日）当たり 小学校：318食、中学校：189食

1) 学校給食費負担金

歳入決算額 23,086,433円

小学校 月額4,300円 (年額 43,000円)

中学校 月額4,800円 (年額 48,000円)

上記の給食費に対して、町から2割相当額を上乗せ補助している。

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により3月4日から臨時休業となったため、3月分の給食負担金は未徴収とし、本年度は月額×10ヶ月分を徴収した。

2) 学校給食運営費（決算額）

歳出決算額

58,590,629円（内、賄材料費26,171,199円）

3) 学校給食提供日数

小学校181日、 中学校181日

* 成 果 [評価 4]

食材料については地産地消を取り入れ、町内JAの協力のもと季節感や風習に因んだ郷土料理や旬の野菜等を献立に加え、献立内容の充実を図っている。

* 課 題

毎回、約500食を調理、配送することになるので適切な人員を配置するとともに、調理場では仕込み、調理、配送に至るまでスムーズな作業ができるよう効率的な体制づくりを図る。また、より豊かな学校給食の実現と一層の効果的な給食運営を図るためのひとつの手法として、給食調理業務の民間委託についても検討する必要がある。

地産地消の推進をしているが、品質管理の面で難しい面もある。

⑥ 学校給食費助成補助事業

* 事業概要

少子化対策ならびに子育て支援に資することを目的として、義務教育対象の子どもが3人以上いる町内在住の保護者に対し、第3子以降の給食費を助成する。ただし、未納及び滞納のない世帯が対象である。

対象世帯数：23世帯 助成金額合計 989,000円

* 成 果 [評価 5]

対象者に通知し申請を促しているため100%の方がこの制度を利用しており、好評を得ている。学校給食費に関心を持つきっかけとなり、収納向上に貢献しました。

令和2年度から児童生徒の学校給食費を無償化するため、当該事業は廃止となる。

⑦ 要保護及び準要保護児童生徒への就学援助事業

* 事業概要

経済的理由等により就学が困難な児童・生徒の保護者に対し、学校で必要な費用(学用品費、修学旅行費、給食費等)を、認定基準額(所得の金額)に応じて認定審査を行った上、支給する。

区 分	受給者	援助額
睦合小(準要保護)	10 人	518,850 円
栄 小(〃)	1 人	21,960 円
富河小(〃)	8 人	538,150 円
万沢小(〃)	1 人	92,090 円
南部中(〃)	10 人	1,045,020 円
星陵中(〃)	1 人	95,540 円
計	31 人	2,311,610 円

◇準要保護者：児童扶養手当受給者

(22世帯31人)

◇要保護者：生活保護で対応
(0世帯0人)

* 成 果 [評価 4]

対象者に対しては、民生主任児童委員等と連携し申請漏れのないように手続きの勧奨を行っている。ひとり親家庭に対する経済的支援の効果は大きい。

* 課 題

前年比5名減、援助額は167千円の減となった。前年に比べると減少しているが援助を必要とする児童生徒（母子、父子家庭）は変わらず多くいる。

⑧ 心の教室相談事業

* 事業概要

心の教室相談員を町内の中学校に配置し、適切な教育相談や基本的な生活習慣等の指導を行い、悩みや不安、ストレスを解消する。

* 成 果 [評価 4]

より身近なところに相談できる場があり、生徒達の悩み、不安、ストレスが和らぎ、心にゆとりを持てるようになることは、生徒が充実した学校生活を送ることに繋がっている。また、相談員は学校や関係機関との連携役を担っている。

* 課 題

相談員は、生徒が抱える諸問題について、担任、養護教諭、関係機関、教育委員会との連携が求められる。

⑨ 学校運営協議会事業

* 事業概要

南部中学校の学校運営に関し、保護者及び地域住民の学校運営への参画や連携を図ることにより学校と保護者、地域住民等と信頼関係を深め、一体となって学校運営の改善や生徒の健全育成に取り組む。

* 成 果 [評価 4]

協議会を通して、地域的心声を学校経営に反映できるようになった。また教育支援センターに「学校支援地域本部」を設置し、町内小中学校の教育活動等に地域の力を活かす「学校支援ボランティア」の連絡調整にあたる体制を整備した。

* 課 題

南部中学校学校運営協議会の学校運営を検証し、町内の各小学校へ令和2年度導入の準備を進める。

⑩ 小学校適正配置事業

* 事業概要

集団の中で多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することで思考力や表現力、判断力、問題解決能力を身に付け、さらに自ら課題を発見し主体的に学び合う協働的な学習が可能となる教育環境を整えるために、小規模化が進む富河小学校と過小規模校となった万沢小学校を統合し、令和２年度より富沢小学校を開校する。

* 成果〔評価 ４〕

富沢小学校として使用する富河小学校の校舎改修工事を年度内に完成させ、令和２年度当初より新たな富沢小学校の開校を迎える準備を進めた。次年度の取り組みは、プールの改修工事の他に校旗・校章の制定を行う。

* 課題

新型コロナウイルス感染症の感染拡大対策の中、学校の臨時休業等もあり、校歌の練習もできない状態である。新たな学校が開校されても校歌のお披露目はできない状態が続くものと思われる。また、児童及び保護者には、統合による新たな学校生活が始まるほかに感染症対策による制限等が加わり、目には見えない心の病が心配されるため、学校及び委員会のより一層の目配り、より良い教育環境の整備が必要である。

（２）学校教育内容の充実

① 町費単独負担教員及び非常勤講師設置事業

* 事業概要

小学校における複式学級解消並びに、中学校におけるきめ細かな教育や教員の免許外教科の解消のため、町費単独負担教員及び非常勤講師を配置し適正な教育指導を行う。

* 成果〔評価 ５〕

学級編制において県基準による教員配置数を町費単独負担教員で補い、適正な教育指導と円滑な学校運営を図ることができた。

町単教員数：小学校２名、中学校２名

非常勤講師：中学校３名

事業費：１６，３４０，０９９円

* 課題

中学校教員は担当教科も関係するため、人材確保が課題となる。また、小学校において複式学級が解消された際は、少人数学級のデメリットを解消する学級運営を行う必要がある。なお、過小規模校である万沢小学校は富河小学校と統合を図り、令和２年度から富沢小学校を開校する。

② 小中学校特別支援教育支援員配置事業

* 事業概要

小・中学校において、特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対して支援員（非常勤職員）を配置し、学校生活の支援を行う。

〔特別支援教育支援員〕

特別支援学級入級相当ではないが、教育的支援を必要とする児童生徒に対し、学校生活を送るために必要な支援を行う。

* 成 果 [評価 4]

〔特別支援教育支援員〕

- ・学級担任と支援員との連携により、特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対し、状況に応じた適切な支援を行うことができた。
- ・学級担任の負担を軽減することができ、学級全体への指導の充実、円滑な学級運営を図ることができた。

* 課 題

専門的な知識・技能を持つ支援員の人材確保が望まれる。また、今後さらに支援を必要とする児童生徒が増加すると予想され、その対応策が必要となる。

③ 中学校外国語指導助手設置事業

* 事業概要

語学指導を行う外国語指導助手(A L T)として民間派遣 1 名が南部中学校で指導している。

* 成 果 [評価 4]

生きた英語に数多く触れることで、英語学習への意欲・関心が向上し、英語を聞く・話すといった基礎的なコミュニケーション能力を高めることにつながる。
また、異文化についての意識が高まることにより、国際理解教育が推進される。

* 課 題

助手の派遣は委託契約のため、委託外の校外活動等への参加には別途契約が必要になる。

④ 小学校外国語指導助手設置事業

* 事業概要

令和 2 年度スタートの新学習指導要領への移行措置として小学校 5・6 年生は年間 50 コマ、小学校 3・4 年生は年間 15 コマ外国語を学んでいる。外国語指導助手(A L T・民間派遣)と県英語専科専任講師が、町内各小学校で指導している。

* 成 果 [評価 3]

外国語活動において、小学 1 年から 6 年までが外国語指導助手(A L T)とふれあうことができ、児童の英語に対する関心が高まり、意欲をもって学習に取り組めるようになった。

* 課 題

新たな学習指導要領への移行期間ではあるがコマ数が大幅に増えており、令和 2 年度の完全実施では、さらにコマ数が増えるので増員を検討する必要がある。

⑤ 学校評議員制度の実施

* 事業概要

地域に開かれた学校づくりをより一層推進するため、各小学校に学校評議員を置き、保護者や地域住民の意見を幅広く聞き、学校と地域が連携しながら特色ある教育活動を展開する学校運営を推進する。

* 成果 [評価 4]

学校の教育目標や地域との連携の進め方などに関し、保護者や地域住民の意見を聞きながら、理解や協力を得て、特色ある教育活動を展開している。

* 課題

令和2年度から各小学校で学校運営協議会を設置し、保護者及び地域住民等の学校運営への参画や支援、協力を促進し、学校と保護者及び地域住民等との信頼関係を深め、一体となって学校運営に取り組むことが求められている。

⑥ 山梨青森南部町児童交流会実施事業

* 事業概要

南部氏の縁に結ばれた、両県南部町児童が、互いの町の歴史や文化、身近な環境などふるさとの特色や学校等を紹介しあい、新しい時代の主役となる子どもたちの交流を深めるため毎年夏休み期間を活用し実施している。

* 成果 [評価 4]

平成31年（令和元年）度は青森県南部町から30名の児童を迎え、両町合わせて12校60名の児童が3日間の日程で交流会を実施した。1日目の歓迎式典、仲間づくりでは表情に硬さも見られたが、すぐに打ち解け、2日目の富士山こどもの国では、木工体験、釣り体験、ウォークラリー等の体験活動を通じて、両県の児童は自然と会話もはずむようになり、お互いの地域の歴史や文化を共有し、さらに心を通じ合うことにより、たくさんの仲間を作ることができた。

日 時 令和元年7月24日～26日（3日間）

交流会：仲間づくりゲーム、富士山こどもの国

参加者数 青森南部町：8小学校30名・引率10名

山梨南部町：4小学校30名・引率17名

参加費用 1人 2,000円

事業費計 577,151円（参加費60,000円含）

* 課題

平成31年（令和元年）度は青森から交流団を迎えた。令和2年度には青森県南部町を訪問する予定であったが、新型コロナウイルス感染症予防対策として、交流会そのものを中止としている。一年間の空白期間が生じることになるが、交流会の目的を継続して理解し、令和3年度に青森県南部町を訪問する際には、児童一人一人がその目的意識を持って参加する取り組みが求められる。

(3) 教育支援センター事業の実施

① 適応指導教室事業

* 事業概要

登校に不安を抱える児童生徒に対し、教員OB等のスタッフが学習の支援などを行い、自立に向けて活動する「チャレンジ教室」を南部町総合会館1階に開所している（平成26年度開設）。チャレンジ教室の開所時間は、月曜日から金曜日までの午前8時30分～午後0時30分までである。

* 成 果 [評価 4]

参加者は1人、通室日数31日。通級生徒は数学、英語を中心に取り組んだ。スタッフは教員OBが務め、学校と密接に連携しながら状況に応じた学習支援を行うことができた。

* 課 題

不登校児童生徒の早期対応に努めるとともに、不登校の背景は集団への不適應、学力不振、友達や教師との人間関係等様々な原因によるものなので、学校、スクールソーシャルワーカー、家庭、教委等関係者が情報を共有し、個々の状況に合った最善の対応を検討する必要がある。また、チャレンジ教室から学校への復帰に努める。

② 教職員の指導力向上研修事業

* 事業概要

夏季休業期間中に町内小中学校の教職員を対象に授業力向上のための研修会を実施している。今年度は小学校教職員についてはICTプログラミング教育の理論と実践、中学校教職員については教育相談の事例について研修を実施した。

* 成 果 [評価 4]

ICT研修ではタブレットPCを有効なツールとして活用するための手法を学び、教育相談では実際の事例について、それぞれの立場からの助言や課題に対するこれまでの取組等について意見を交わした。

* 課 題

研修で学んだことを実際の授業でどう生かしていくかが課題となる。

③ 学力向上対策事業

* 事業概要

学習意欲の高揚と学力向上を図るため、小学4年生～中学3年生を対象に自学自習の場「なんぶ未来塾」を開所している。講師は教員OBが務め、毎月2回、土曜日に開催。

* 成 果 [評価 4]

参加者は小学生31名、中学生18名、開校日数は小学生38日（延べ374人）、中学生38日（延べ182人）。

* 課 題

開校時間、登校手段に配慮する必要がある。また学校と連携し効果的な運営を図る。

④ 特色ある南部町教育事業

* 事業概要

特色ある南部町教育として、かつて蒙軒学舎で行われた英語教育に本町の特色を見出し、生きた英語教育を目的に外国人講師とともに過ごす「イングリッシュキャンプ」を夏季休業期間中に開催している。

* 成 果 [評価 4]

令和元年8月1日～2日に静岡県立朝霧野外活動センターで開催し、小学5年～6年生の47人が参加した。講師はALT5人、日本人講師5人が務めた。ゲームやカレー作りを通じて、英語に親しむことができた。

* 課 題

英語の楽しさを感じるだけでなく確かな表現をねらいとして、一人ひとりが表現できる場面設定が必要である。

⑤ N授業

* 事業概要

多くの児童がともに学習し、多様な考えに触れるなど学びを共有し、広める機会として3年生から6年生を対象に年1回ずつN授業（町内小学校4校の合同授業）を実施している。

* 成 果 [評価 4]

4校の児童が一つの授業に参加し、多様な考えに触れることができ、学びを深めることができた。互いに意見を述べたり、聞きあったりすることで交流も深まり学習意欲も向上し楽しみながら学ぶことができた。

* 課 題

教材研究、資料づくりなど教師の負担感は否めない。また、事前研究会など4校の日程調整が難しい。

⑥ ICT教育支援事業

* 事業概要

平成29年7月にタブレットPCを小中5校に導入した。「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善をねらいとして、PC・インターネットを学習活動に利用するため、教育支援センターにICT支援員を配置し、5校を巡回して教員の操作技術補助、教材作成、授業支援等を行っている。

* 成 果 [評価 4]

ICT教育による授業改善が進んだ。

* 課 題

情報化社会の成長に伴い、技術的な捉えから情報技術を活用する力が求められるため、時代に対応できる子供たちを育成できるよう、授業内容の一層の充実に向け支援する。

⑦ 小学校英語教科支援事業

* 事業概要

令和2年度に小学校5,6年生は英語が「教科」となり、3,4年生は「外国語活動」となるため、小学校の英語科授業における支援、指導等について専門の指導員を配置し巡回指導を行う。

* 成果 [評価 4]

英語授業に対する悩みや不安の解消、指導力の向上につながった。

* 課題

現在、県費による英語専科が配置されているが、完全実施となる次年度以降も配置されるか、はっきりしておらず、ALTの配置計画と合わせて支援体制の検討が必要となる。なお、さらに教職員の英語力向上も必要である。

2. 生涯学習の充実（生涯学習課）

① 生涯学習の推進

* 事業概要

各種講座・教室・事業を通じて、町民が学習する機会を提供する。
アルカディアフェスタ、成人式等を開催した。

* 成果【評価 4】

【アルカディアフェスタ2019】

令和元年9月22日にアルカディア南部総合公園において、「きたえよう心と体
広げよう笑顔の輪」というテーマで、あらゆるライフステージの町民が一同に集う機
会を提供した。当日は各種表彰、神楽披露、人形劇、スポーツ鬼ごっこなどのイベン
トに加え、施設の無料開放を実施した。

この結果、幅広い年齢層の町民400名に対して、生涯にわたる学習意欲の促進と
健康増進が図ることができた。

【成人式】

令和2年1月11日に文化ホールにおいて、成人者（男性34名、女性38名）を
祝福する式典を開催し、新成人に再会の場合、地域への愛着と成人としての自覚を導く
機会の提供ができた。

* 課題

企画当初の一番の課題である「イベント統合による事業のスリム化」については、
経年的に安定してきており、以前よりもトータルの事務量が減っていることから一定
の成果が出ていると感じている。

また、体育館と文化館、屋外スペースという開催環境や、幅広い年齢層を対象とす
るなかで、参加者が世代交流や新たなジャンルを体験する機会が提供でき、事業連携
の相乗効果がでていられる。

このような総合イベントをきっかけに、今後、各個人が日常生活のなかに文化・芸
術・スポーツが常態化するよう、年間を通じて継続的に事業を発信していきたい。

② 青少年教育の推進

* 事業概要

青少年の人間形成において家庭の果たす役割は大きく、特に核家族化が進みつつあ
る現在、個としての家庭では、その役割の発揮に限界があり、地域の皆で支えあつて
青少年の教育や社会問題の解決に取り組まなければならない。町としても、少年期か
ら青年期にかけ、社会参加活動への機会を提供するための青少年教育を推進する。

* 成果【評価 3】

子どもクラブ連合育成会では、アルカディアフェスタにおいてスポーツ鬼ごっこ大
会を開催し、体力の向上を図った。1月23日（木）～1月26日（日）には新春書
道展を開催し、377点の出品があった。

町民会議では、町をはじめ関係機関や団体と緊密に連携して、夏季生活指導会議や
冬季生活指導会議を通じて、地域・学校・家庭それぞれが連携し、青少年を支えあ
うことの必要性についての情報共有ができた。

*** 課 題**

中学生世代までは各地域において繋がりがあるものの、高校生世代では進学先の多様化や部活動等で多忙となり、保護者同士の繋がりが希薄となっている。このため活動の継続が困難な状況である。今後は必要に応じ、関係者の意見を伺っていきたい。

③ 高齢者教育の推進

*** 事業概要**

高齢化社会においては、高齢者が経済社会の変化に対応していくために絶えず新たな知識や技術を習得する機会が必要とされる。また、学習を通じての豊かさや生きがいの充足が求められることから、積極的な社会参加を果たすことができるような学習と活動の機会と場を提供し、高齢者教育の振興を図る。

【なんぶいきいき大学】

学 習 会	月 日	内 容	場 所	受講者数
第 1 回	5 月 15 日 (水)	『開講式と町長講話』 南部町長	活性化 センター	53 人
第 2 回	6 月 20 日 (木)	『男女共同参画総論～基本法施行から 20 年、 平成が終わり新たな時代に思うこと～』 立教大学教授 萩原なつ子氏	びゅあ峡南	39 人
第 3 回	7 月 11 日 (木)	『いきいき交通教室』 南部自動車教習所	南部自動車 教習所	42 人
第 4 回	8 月 1 日 (木)	『夫婦で認知症予防！地域の活力はシニア世代 の健康維持から』 NPO 法人 エアアシスト理事長 大野孝徳氏	びゅあ峡南	59 人
第 5 回	9 月 22 日 (日)	『アルカディアフェスタ 2019』	アルカディア	34 人
第 6 回	10 月 17 日 (木)	『こうふ開府 500 年・信玄公の見た景色』 信玄ミュージアム、甲府市武田氏館跡歴史館など	甲府市ほか	49 人
第 7 回	11 月 21 日 (木)	『南部町の出会いと絵を描く事』 棚町宜弘氏	アルカディア 文化館	20 人
第 8 回	12 月 5 日 (木)	『歌って笑って健康長寿！！』 中 なほみ 氏	びゅあ峡南	25 人
第 9 回	1 月 23 日 (木)	『いきいき実践！！健康教室』 福祉保健課、食生活改善推進員	活性化 センター	25 人
第 10 回	2 月 13 日 (木)	『閉講式と春待ちコンサート』 リードアンサンブル♪ミュール♪	文化ホール	48 人

*** 成 果 [評価 3]**

なんぶいきいき大学では健康づくりや生活に密着したテーマなどを毎回設定し、年間を通して健康長寿の道を歩んでいただけるよう、歌を歌ったり身体を動かしたり楽しく参加できる学習内容を提供できた。

*** 課 題**

高齢者の社会参加が少なくなっている今日、高齢者世代の趣味も日々変わってきている。ニーズの多様化などもあるが、多くの参加者に興味を持ってもらえるテーマ設定や足を運んでもらうための工夫を行い、新規参加者の増加を目標にしていかなければならない。

3. 文化の振興（生涯学習課）

① 文化財保護事業

* 事業概要

文化財は地域の歴史や文化の成り立ちを理解するうえで、欠くことのできない資産である。現在、国指定1件、県指定18件、町指定49件の指定を受けており、文化財審議会委員を中心に書跡や史跡また天然記念物の保護、並びに無形文化財の継承に努める。また、近年県内の埋蔵文化財包蔵地において、届出をせず開発行為を行う事例が発生している。このような事例が発生しないよう情報の発信、試掘等の実施を行う。

南部氏展示室・近藤喜則史料展示室を活用し、歴史上の事実や功績を紹介する。

* 成果【評価 4】

台風被害により県天然記念物被害が発生し、撤去・保全対策を行った（き損2件、形状変更1件）。また、県・町の補助を活用し、3件の修理及び1件の表示板・標識柱の修繕を実施し、適切な保存に努めた。埋蔵文化財に関しては受理5件伝達5件合計10件処理を行い、3件の試掘調査を行った。上記の取り組みにより、各種文化財の保存・継承に努めることができた。

前年度開設した近藤喜則史料展示室の紹介パンフレット、南部氏の郷のパンフレットを作成し、来場者に手に取って知ってもらえる機会の提供ができた。

* 課題

文化財専門の知識を有する職員がおらず、専門的業務の判断等については難しい部分がある。県の専門機関及び所有者等との協力体制を強化し、文化財の保護と活用に努める。特に活用の部分に関しては、まだ実施不足の面があるため、既存の歴史資料について、南部氏・近藤喜則の両史料館等を手始めに情報発信しながら、生涯学習の場として活用していくことが必要である。

② 文化協会等育成事業

* 事業概要

平成30年度から、各地区ごとの文化協会が解散し、新南部町文化協会として活動を開始した。2年目の本年は今までの事業を滞りなく継続し、“創りだそう 暮らしの中に輝きを”をキャッチフレーズに、町民の文化活動への支援、芸術文化へ触れる機会の提供、文化祭の開催を通し文化振興への貢献を図っていく。

* 成果【評価 3】

文化祭では、芸能発表及び展示部門（作品1877点、来場861名）を実施した。年度末に新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となる事業もあったが、概ね計画どおり事業が開催できた。この結果、年間を通じて、町民が文化活動の成果を発表する機会の確保、気軽に専門的な文化芸術に接する機会の提供が図られた。

* 課題

協会員の高齢化などによりグループの存続が危ぶまれる団体も見受けられる。文化活動への周知啓発や後進育成など文化振興の活性化を図るとともに支援協力を行っていく。

4.総合会館・公民館・文化ホール事業（生涯学習課）

① 各種教室、講座等の主催事業

* 事業概要

中央公民館では、身近で多様な学習機会の提供を目的に、町民を対象とした公民館講座や各種教室を開催している。

【連続講座】

教 室 名	時期・実施回数	受講者数
陶芸教室	月 1 回 (8 回)	17 人
パン作り教室	月 1 回 (8 回)	24 人
古布を使った和小物作り教室	7 月実施 (2 回)	8 人
ガーデニング教室	月 1 回 (8 回)	7 人
パッチワーク教室	1, 2 月実施 (2 回)	13 人

【単発講座】

教 室 名	実施日	受講者数
線香花火手作り体験教室	12 月 14 日	6 人
なんぶお茶教室	9 月 20 日 11 月 28 日	8 人
おやこ料理教室	8 月 10 日 12 月 14 日	12 人 12 人
おやこお菓子作り教室	2 月 1 日	21 人
歴史探訪講座	12 月 7 日	41 人

* 成 果 [評価 3]

公民館講座は、生涯学習のひとつである生きがいがづくりの入口としての役割が確立してきている。講座受講者は、講座がきっかけで趣味として続けているだけでなく、講座以外の事にも興味の範囲が広がりより活動的になる傾向がみられる。

本年度は従来から人気のある講座を中心に、実験的なものを取り入れながら開催し、概ね好評であった。

年度末には新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部の講座が開催できなかったが、年間を通じて学習機会の提供をすることができた。

* 課 題

受講者が以前から受講しているリピーターが多く、新規受講者の開拓が課題である。新講座において受講者には好評だった実績を踏まえ、新講座の開催にあたっては講座内容をわかりやすく町民に広報することに努めるとともに、日時等など参加しやすい方法を検討する。

また、多様化する学習ニーズに応じているものの、学びを通して仲間づくりや地域に内在する課題への気づき等へ繋げていく公民館本来の役割を果たすまでは一朝一夕にはいかない。

このため、学びの場というコンテンツの提供をきっかけに、地域住民が集うことの大切さ、地域リーダーの育成という視点から、主体的な学習活動を支援していく必要がある。

② 南部町文化ホール事業

* 事業概要

芸術文化に関する住民の意識の啓発、教養の向上を目的とし、映画会、寄席、合唱などの自主事業を実施した。

また、地域社会の振興に寄与するため、南部町民文化祭芸能発表会、内船歌舞伎の定期公演等へ協力し、その他ホールの貸館等を行っている。

【自主事業】

事業名	開催日	入場数	販売収入額
なんぶシネマ1 「クレヨンしんちゃん」 「こんな夜更けにバナナかよ」	8月24日	92人	25,900円
なんぶシネマ2 「名探偵コナン」 「アルキメデスの大戦」	10月26日	169人	40,700円
なんぶ演芸 出演：三遊亭圓歌、神田松之丞、 江戸家小猫	7月6日	338人	690,000円
計		599人	756,600円

※前年度自主事業販売収入額 891,900円

【有料貸館事業】

事業名	開催日	入場数	使用料
佐野友里ピアノ教室発表会	6月29日	30人	10,270円
ジョイントコンサート	6月29日	100人	31,870円
計		130人	42,140円

【無料貸館事業】

事業名	開催日	入場数	使用料
芸術鑑賞教室	5月7日	150人	無料
町民文化祭	11月3日	200人	無料
合唱のつどい	11月16日	200人	無料
内船歌舞伎定期公演	12月1日	250人	無料
身延高校演劇部クリスマス公演	12月22日	300人	無料
各種会議 ほか48回使用	6月12日ほか	2,375人	無料
計	全53回	3,475人	—

* 成果 [評価 3]

年度末には新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部の事業が開催できなかったが、年間3回の自主事業を実施し、定期的に文化芸術の素晴らしさが町民に伝わる機会の提供ができた。

* 課題

自主事業については、できるだけ集客の見込めるコンテンツの提供が何よりも求められるため、演目・日程ともに文化ホール運営委員の意見を取り入れつつ、企画立案して

いきたい。

貸館については、発表会・会議・練習などでの利用がある。施設に対し駐車場が不足している実情はあるが、駐車場一覧などを配布し対策している。施設の稼働率と管理のバランスを取りながら、より良い利用形態を模索し地域の文化振興に貢献していきたい。

5. アルカディア文化館（生涯学習課）

① 南部図書館・富沢図書館

* 事業概要

地域の情報拠点、学習の拠点となる図書館は、町民の学習要求の多様化、高度化に伴い、一般書はもとより専門書、学術書、地域資料、さらには公共図書館と学校図書館を結ぶネットワークの活用を図り、学習にあった多種多様な資料の収集及び提供を目的とする。

【南部図書館】

- 開館日数： 291日
- 来館者数：13,398人
- 貸し出し冊数：47,157冊
- 主催教室事業

事業名	開催数	参加者数
乳幼児・幼児・リトミック教室・3B体操	34回	745人
お話し会・読書指導（小学生以下対象）	9回	677人
講座・教室	11回	368人
映画会	13回	162人
アルカディアフェスタ2019図書館部門	9月22日	200人

【富沢図書館】

- 開館日数： 288日
- 来館者数： 3,438人
- 貸し出し冊数：13,046冊

* 成果 [評価 4]

乳幼児親子並びに小学生を対象にしたお話し会や、各施設への出張お話し会、講師を招いた講演会・教室、映画会を図書館ボランティアの協力を得ながら開催している。事業への参加が来館への動因となり、読書に対する意識効果は上がっている。

アルカディアフェスタ2019図書館部門では、常設展の無料開放や人形劇団の公演により、図書館・美術館の魅力を親子で楽しんでもらい盛会であった。

* 課題

利用者のニーズにあった本を提供するため、リクエスト等の情報の収集に努めるとともに、住民の読書支持率向上のための方策を検討していく。また、蔵書情報のWEB公開やオンラインによる予約システム等の新しい生活様式に則した図書館機能を検討し、住民にとってより利用しやすい図書館運営に努める。

② 町立美術館

* 事業概要

町民が歴史と文化に興味を持ち、芸術向上の場として親しみやすい美術館運営を考慮し、郷土が誇る芸術家「近藤浩一路」の功績を称え、その作品を美術館に展示する。

水墨画美術館として幅広く認知され、町内芸術家の情報発信、交流の場となるような事業を展開する。

○開館日数：293日

○企画展

・国際墨彩画展	6月7日～	6月23日	318人
・笠雲富士写真展	8月1日～	8月25日	236人
・棚町宜弘展	11月1日～	11月30日	1,119人
・宮西達也わーいなんだアーランド展	12月14日～	1月31日	1,537人
・パッチワークキルト展	2月7日～	2月24日	675人
・早蕨展	3月1日～	3月22日	250人

○常設展

・近藤浩一路作品	(通年開催、年6回展示替え)	676人
----------	----------------	------

* 成 果 [評価 4]

企画展の開催にあたり、チラシの掲示及び配架の依頼施設数を増やしたことや、マスメディアへの記事掲載依頼や取材依頼も積極的に行った結果、来場者数が増加する等の成果が得られた。中でも、絵本作家の宮西竜也わーいなんだアーランド展では、1,500人強の来場者が訪れ、多くの賛辞をいただいた。

* 課 題

さらなる来館者の増加を目指すため、企画展等の告知チラシの掲示及び配架数をさらに増やすとそれに係る経費も増加してしまうことから、より集客力のある作家の企画展開催の検討や、WEBやSNSの活用による情報発信を強化する必要がある。

6. 生涯スポーツの充実（生涯学習課）

(1) 施設の充実と効果的な活用

① アルカディアスポーツセンター

○営業日数：282日

○入館者数：37,965人

	利用者数	収入金額
内訳 プール・ジム	19,189人	(4,656,040円)
レッスン	13,355人	(8,046,000円)
体育館	5,421人	(517,410円)
		<u>13,219,450円</u>

○その他の施設：35,910人

	利用者数	収入金額
内訳 テニスコート	2,938人	(251,340円)
野球場	4,704人	(533,290円)
運動場	4,896人	(58,930円)
富沢野球場	2,256人	(124,220円)
小中学校施設	20,614人	(511,450円)
柔剣道場	502人	(25,710円)
		<u>1,504,940円</u>

○主要教室事業	申込者数	事業収入
☆親子体操教室	38組	114,000円
☆シニアトレーニング	138人	414,000円
☆シニアフィットネス	54人	162,000円
☆子供体操教室（年少・年中・年長・小1）	123人	369,000円
☆エアロビクス	23人	103,500円
☆大人初級・上級水泳教室	39人	117,000円
☆ズンバ	87人	391,500円
☆ズンバゴールド	39人	175,500円
☆全身シェイプ&体幹強化(初級・上級)	215人	1,075,000円
☆やさしいエアロ	51人	229,500円
☆筋トレ&かんたんエアロ	25人	112,500円
☆からだ整え体操	65人	260,000円
☆水中ウォーキング&エクササイズ	32人	144,000円
☆はじめてアロマヨガ	81人	364,500円
☆リラックスアロマヨガ	62人	279,000円
☆チームダイエットなんぶ	17人	85,000円
☆小学生水泳教室	224人	2,240,000円
☆年中・年長水泳教室	74人	740,000円
☆ママヨガ	19人	76,000円
☆ボディーメイクトレーニング教室	29人	145,000円
☆全身シェイプ&体幹強化	41人	205,000円
☆体操教室（生涯スポーツ係）	33人	132,000円
☆トランポリン教室（生涯スポーツ係）	28人	112,000円
合計	38組 1,499人	8,046,000円

* 成 果 [評 価 5]

教室事業については、3ヶ月ごとに教室の見直しを行っており、常に利用者ファーストの視点で教室事業を実施してきた、令和元年度については、申込者数、事業収入、共に前年を上回った。

* 課 題

令和2年度については、新型コロナウイルス感染防止策として、三密の回避などの観点から、参加者数の大幅な削減をせざるを得ない状況にある。参加者を一人でも多く受け入れられるよう、事業数を増やすなど新生活方式での事業実施を検討していく必要がある。

②その他施設

* 事業概要

社会体育施設・学校体育施設の開放は、各体協支部、体協専門部、クラブチームの多数に利用されている。

* 成 果 [評 価 4]

体育館・グラウンドとも年間を通して体協専門部、スポーツ少年団、クラブチームが利用しているほか、アルカディア野球場については、これまでの管理運営が評価され、3か月先まではほぼ毎週末予約が入る状況にある。今後も利用者の要望等を基に管理運営を行っていききたい。

* 課 題

アルカディア南部総合公園(スポーツセンター、テニスコート、野球場、運動場、周辺公園)及び社会体育施設は、管理面積が広く、職員数が減少していることから、業者などを効率よく活用し、レベルの高い施設を目指していきたい。また、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を徹底し、利用者にもその旨よく理解していただき、絶対に感染者を出さないよう呼びかけ等を行なう。

(2) スポーツグループの育成とスポーツの生活化

① スポーツ推進委員事業

* 事業概要

目 的：町民にスポーツの楽しさ、すばらしさを伝えるとともに、スポーツやレクリエーションの普及振興を図るための指導・助言を行う。

事業費：850千円（スポーツ推進委員会補助金）

事 業：1) 軽スポーツ普及事業

トランポリン・体操教室（11回）、スポーツ鬼ごっこ教室（2回）

2) 各種スポーツ大会への協力

アルカディアフェスタ2019、第17回駅伝・マラソン大会

3) 各種研修

定例会（4回）、峡南研修（3回）、県研修（2回）

* 成 果 [評 価 4]

スポーツ推進委員24名は、スポーツの普及振興に努めている。中でもトランポリ

ン・体操教室・スポーツ鬼ごっこについては、指導有資格者を中心に指導ができ、参加者から好評を得た。チャレンジデーやアルカディアフェスタでは、準備から当日の運営に参画している。また、体協事業の駅伝マラソン大会等ではスムーズな大会運営の協力ができた。

* 課 題

町の事業以外にも、スポーツ協会主催事業等で各小中学校や地区活動へ積極的に出向き、スポーツ活動の推進を図る。

② スポーツグループ育成事業

* 事業概要

目 的：町民のスポーツ実施率の向上とスポーツの日常化を目指し、軽スポーツグループの育成を図る。

事 業：「南部リズム会」は平成18年度から自主団体として活動し、毎月1回リズム体操教室を開催している。会員は年度末現在86名。

* 成 果 [評価 5]

南部リズム会は設立から12年が経ち町民の中に定着している。50代から70代までの女性層が中心で生活習慣病予防、体力づくりのほか会員の憩いの場として役割を果たしている。

* 課 題

リズム体操をするだけでなく、南部警察署と協力しての交通安全・防犯活動等の多種多様の活動も活発となっている。なお一層の啓発や事業の推進を図り、スポーツを積極的にしない町民の取り込みを図る。また、会員自身が更に主体的に活動し、運営していく体制を整えていく。

③ スポーツ教室・イベントの開催

* 事業概要

目 的：スポーツを振興し、町民の体力増進・健康を保持するとともに、人と人とのふれあいを育むコミュニティの場として、誰でも楽しめる軽スポーツを中心に教室を開催する。

事業費：教室謝金504千円、フェスタ400千円、サンクスデー59千円

事 業

1) 各種教室の開催

教 室 名	開催日	開催回数	参加者数
ス ポ ー ツ 鬼 ご っ こ 教 室	9月9・11日	2回	107人
箱 根 ウ ォ ー キ ン グ	11月27日	1回	76人
ト ラ ン ポ リ ン ・ 体 操 教 室	4月～2月	各11回	延べ524人
スキー教室 しらかば2 i n 1	2月16日	1回	39人
リ ズ ム 会	4月～2月	11回	延べ512人

2) スポーツイベント

イ ベ ント 名	開催日	参加人数
チ ャ レ ン ジ デ ー 2019	5 月 29 日	5,178 人
ヴァンフォーレ甲府 サンクスデー	6 月 15 日	150 人
アルカディアフェスタ 2019	9 月 22 日	400 人

* 成 果 [評価 3]

日頃からスポーツの体験ができない方に対してのきっかけづくりとして大きな効果があり、各教室とも多くの初心者参加があった。また、フェスタでは、育成会対抗のスポーツ鬼ごっこ大会が盛大に開催された。

* 課 題

種目を固定化するのではなく、町民のニーズにあったスポーツやニュースポーツイベント教室を開催する。その中で、スキー教室に関しては参加者が減少傾向にあり、内容・金額・開催時期などの見直しが必要と考える。広くスポーツの楽しさやすばらしさを啓発するため、フェスタ・サンクスデーは継続して開催する。

(3) 組織の充実と連携

①体育協会（令和2年度よりスポーツ協会に改称）

* 事業概要

目 的:生涯スポーツを推進するには体育協会と町行政とが緊密な連携を図る必要がある。

事 業:体育協会は25支部、16専門部、7スポーツ少年団から組織され、教育委員会生涯学習課生涯スポーツ係が、庶務会計を担当しスポーツ振興を図っている。競技スポーツとしての一面と生涯スポーツの一面を有し、県体育祭への出場、町民体育祭・駅伝大会の開催、各種スポーツ教室の開催を年間事業としている。特に初心者を対象にしたスポーツ教室では各種目の普及を目指している。行政とも緊密な連携と協力体制が図られている。

事業費: 4,600千円 (体育協会補助金)

事 業 名	開催日	参加人数
体育功労者表彰式	9 月 22 日	150 人
第17回南部町駅伝マラソン大会 51チーム・31人が完走	1 月 26 日	450 人

* 成 果 [評価 4]

町と体育協会の連携が図られスポーツ事業が実施されている。令和元年度から町民体育祭は中止となり、駅伝マラソン大会が町の一大行事として位置づけられる。

駅伝マラソン大会は、当初65チームの参加が予定されていたが、インフルエンザの流行により、14チームが出場をとりやめた。

マラソンに関しては、今後も参加者が増える可能性があるため、更にPR活動を充実させたい。

*** 課 題**

町民体育祭が中止されたことにより、町民が一堂に会して運動をする機会が減ってしまい、新たな場の創設が必要か検討する。

部員の減少等により活動機会が減少している専門部においては、新規部員の取り込みのために体験教室を開催していく。

各支部で軽スポーツを開催する場合は、用具の貸出の他に専門指導者ができる限り協力し、新種目の紹介など身近にスポーツを感じることができるような指導・普及を図る。

教室開催にあっては、安全面には万全な対策を実施して、町民のニーズにあった種目・競技を開催する。